

LED電球 出荷1000万個

パナソニック

パナソニックのLED(発光ダイオード)電球の国内累計出荷個数が、年内に1000万個に達する見込みになったことが27日、わかった。東日本大震災による節電意識の高まりなどを背景に市場が急拡大し、09年10月の発売から2年余りで大台突破となる。当社によると、LED電球の累計出荷が1000万個を超えるのは業界で初めて。

【竹地広憲】

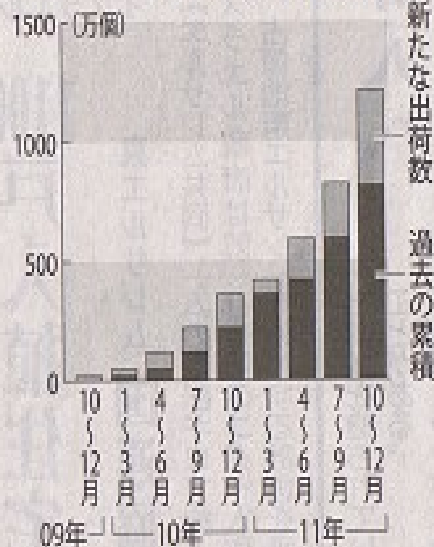
節電で市場急拡大

同社はLED電球で約3割のシェアを持ち、国内最大手。当初、11年度中の1000万個達成を目指していたが、震災後から8月までの販売数が前年の2倍以上に急増し、目標より3カ月早い達成が確実となった。

省エネ型として白熱電球からの置き換えが進んできた電球形蛍光灯は80年に発売され、1000万個達成に11年を要した。さらに消費電力が少なく長寿命

業界初、年内に達成見込み

パナソニックのLED電球出荷累計



※11年10~12月は予想

のLED電球は、その5倍以上の早さで普及が進んでいることになり、同社は「震災後の節電意識の高まりに加え、電球形蛍光灯と同じくらいラインアップが充実したことで、LEDを選ぶ消費者が増えた」と分析している。

同社は11年のLED電球の国内市場規模を2000万個以上と推計し、10年に比べ倍増すると見込む。家庭用の電球市場全体では、電球形蛍光灯が6割弱を占める一方、LEDはまだ1割程度に過ぎず、さらなる置き換え需要の獲得を目指す。



パナソニックが10月21日に発売するLEDの「クリア電球」。白熱電球のように中央部分が点灯する

今秋以降、光が広範囲に広がる透明な電球など8種類の新商品を発売し、12年度のシェアを5割に引き上げたい考えだ。

調査会社GfKマーケットインクサーピスマーヤバンの調べでは、LED電球の販売数は6月、初めて月間で白熱電球を逆転した。東芝やシャープ、NECなど電機大手各社も、省エネや光の広がりなど独自の性能を売りにした新商品の投入を加速させており、電球市場の主役が変わりつつある。